

結婚生活は自動車を運転するのと同じです

「きょうはお忙しいところを、わざわざご出席くださいましてありがとうございます。これから結婚しようという若い人達のためのアドバイスのようなお話を、お聞かせいただければと思います。」

中西 私などは、主人の教え子が多いものでですから、よく結婚の問題についての相談を受けるんですけど、結婚をすすめるということとはなかなかむずかしいですね。絵を描くことと結婚生活をどうやって

なく努力したりする、そういうことの積み重ねじゃないでしょうか。

だから、ほうっとしていたのでは成り立たないですね。自動車に乗るのと同じことじゃないかしら。もっともどの車に乗るかということにもよりますが（爆笑）スピード一点ばりの車もあるし、ゆったりと走る自動車もありますしね。問題は、その車をどうやって運転するかということですね。油断したら事故をおこしますもの。だから、ただ好きだからというだけで結婚するのは危険だと思いま

結婚してはじめて人生の深いところがわかってくる、そういう場合が多いですね。若い頃に、自分でよくわかっているつもりでいたことが、結婚してから本当によくわかってくるような気がしますね。いわゆる精神的修養ということも結婚してこそできると思うんですよ。一生を独身で通すなんて、私はとても空しいことのように思います。私も、はたち前には、結婚なんかするものかと思っていましたけど、学校を卒業する頃になって、本能的に空しいと思うようになりましてね。しつかりした人

座談会

結婚のすすめ

▼出席者▲ 白川秀子（作家白川濯氏夫人）

中西咲子（洋画家中西勲氏夫人）

川野彰子（作家）

両立させてゆくかという問題に、皆さん悩んでいらつしやいますね。そういう時の結婚のすすめ方というのは、ほんとにむずかしいですよ。私の実感をいくら話してあげても、未婚の方にはそれがなかなか伝わらないですね。つまり、実際に結婚生活を経験しないかぎり、分らないんじゃないかしら。観念や言葉だけではとても説明できませんものね。

すね。結婚生活に附随する、いろんな苦悩を十分に、適当に配慮しないと、楽しい生活はおくれなのだというのを、しつかり心得ておいていただきたいと思えます。白川 私はもうこの年になると、若い人の気持がピンときませんね。私など、今まで平々凡々と生きてきましたから。

によりかかっていきたい、そんなふう思うようになって……結婚したあとは、もう他には行く所がないんだと思つてがんばつてきました。10年経つた今では、自分の居場所がきちんとできてきた感じで、だから小説も書けたわけですよ。

「その、実感」をここでお話しねがえませんか。

でも、男の方の場合は、結婚しないはずいぶん不便なんじゃないですか。身のまわりのことなどを考えますとね。切実に必要性があるように思えますね。

もし、自分の子供が結婚しないなんて言いだしたら、ぜひ結婚しなさいってすすめるつもりです。もっとも手放すのは、惜しい気もしますけど（笑）

中西 そうね。やはり結婚生活っていろいろ頭を使って工夫したり、休み

川野 人間は結婚しないと一人前にならないように思うんですけど

白川 私も惜しいな、と思えますわ。手放した当時というのは、ほんとに淋しい気がいたしますね。

寝る時などに、「お母さん、お母さん」って呼ぶ声が聞こえてくるような気がして。でも、本人がしあわせに暮らしていつてくれれば、それでいいと思っていますけど、白川さんはご結婚をさったのはいつですか。

白川 もう大昔ですわ(笑) 30年前になりますね。主人が鳥取にいらる時に結婚いたしました。

中西 私のところは、去年10周年を迎えました。

川野 私は12年になります。子供が6年生、4年生、1年生、来年1年生になる子と、全部で4人います。夏休みになると、もうウンザリしますね(笑)

生後50日目の赤ちゃんを
つれて決死行!

——結婚してみて思ったほどよくなかったというようなことはございませんか。

中西 それはありませんね。

白川 でもそんなこと言いだしたら切りがありませんわ(笑)

中西 逆に思いもかけなかったいい所もありますね。

川野 それがあるから、結婚生活も続いていくんじゃないかしら。私なんか10年以上もやってきて今ではそうシンドイこともなくなりましたね。

白川 それは今はお二人とも体力的にお盛んな時でいらっしゃるから……今シンドかったら、それこそあとどうにもならないですよ。

中西 だいたい誰でも、結婚して10年目ぐらいになると、ホッとひと息つけるんじゃないかと思えますけど。

川野 だんだん要領を覚えてきま

すものね。だから、そこで離婚したら、別の人と結婚してまた今迄と同じ苦労するのかもしれないと、シンドイから離婚する気になれませんでした(爆笑)

白川 私は今となつては、結婚してもしなくても、どちらでもよかつたな、と思いますわ。どっちでも同じだったんじゃないかしら。

そうは言っても、息子にはなんとか早くお嫁さんをもらつてやりたいとは思っていますけどね(笑)

川野 でも、結婚生活を30年続けてきた人と、そうでない人とは、やはりどこかその人から受ける感じが違うと思いますわ。

白川 そうでしょうかねえ(笑) ——これまで一等苦労されたことというのと、どういうことでしょうか。

白川 そうですね、やはりなんといつても戦争中のことが忘れられませんね。その頃、私は子供3人といっしょに、郷里の福島に疎開しておりました。主人はひとりて神戸に下宿いたしておりましたけど、なにしろ当時のことですから、いつ召集がくるかわからない、そういう不安がいつもありましてね。それで主人が部屋を借りたから出てこないかというんですけど、ずいぶん迷いました。両親にも、もし召集になったら、生き別れだからぜひ行きなさいってすめられまして漸く決心がついて出てまいりました。生れて50日目の赤ちゃんを抱いて、大阪駅に着いた日が、ちょうど終戦の日で、陛下の放送をホームで聞いたのですけど、終戦と知ってもピンときませんでしたわ。でも、その時はほんとに悲壮な気持でした。私にし

てみれば、決死の覚悟だったのですものね。今、その子は短大に行つておりますけど、あの時の経験がこれまでの人生のなかでいちばん心に残っていますね。

相手に対応してゆくことが
かんじんです

中西 結婚以前と結婚以後とでは要求されるエネルギーが、全く違いますね。結婚してからは、10倍くらいのエネルギー、生命力が要求されるように思うんですよ。

例えば、夫婦ゲンカをしますね。そうすると、あとに不愉快な気分が残つても、それを自分でうまくコントロールしていかななくてはなりませんから。

主人が忙しい時には、自分で自分をそれに合せてゆく、当意即妙に相手に対応してゆく、そういう技術が結婚生活には必要ですね。だって、相手を動かすっていうことはできませんもの。過去において別々の生活を生きてきたものが一緒に暮らしてゆくわけですから、どうしても自分が相手に合せてゆくほかないように思います。

川野 私は大変不器用な女ですから、そういう技術を身につけるのに10年はかかりました。

中西 はじめの5年間くらいは、ただもう暗中模索で……

白川 私はもうそういう気苦労は忘れちゃいましたわ(笑) 30年も過ぎますよね、お互いになつてしまいな、風みたいな感じになつてしまつて(笑) 同じ家に一緒に住んでいるというだけみたい(笑)

でも、どうなんでしょうか。最近の若い方を見ていると、男の方はずいぶんマメですね。なんで

も奥さんまかせというんじゃないやなくて、子供のことでなんでもよくお手伝いをされますね。あんまり奥さんが世話を焼きすぎると、ご主人が怠けものになるというので、ご主人をよろしく教育なさってるのかもよしくね(笑)

川野 あんなにマメで、男としてのいいのかしらなんて思うこともありませんわ。まあ、男の人はそれで満足しているのかもしれないけど。うちの子供でも、男の子のくせに、汗まみれになってミシンを踏んでるんですね。なにをしてるのかと思つたら、エプロンをぬつ



白川 秀子 さん

てるんです(笑)

中西 時代の移り変わりとともに生活の仕方も変わってきて、みんな賢くもなってるんじゃないかしら。

でも、男の人っていうのは、女の気のつかないことによく気がつきませぬ。感度がいっていかしら。よすぎて困る場合があつて……もう少しほうっておいてくれて、ほうっとしてほしいなと思うときがありますね。

うちの主人は、妙なクセがあつて、家を出かける時に、靴をはいた途端にもすく忙しくなるんです。それまでは悠々としていて、いきりハンカチはあるかとか

なんとかせわしなくなるんですよ(笑)その度に、お前はスロモーションでダメだなんて叱られるんですけど、あとでどうしてこんなに怒られるのかしらと思つて淋しくなることもありました。

白川 私のところは、その点はあつさりしていませんね。言い争いしてもすぐ忘れてしまうんですよ。ちょっと物足りないくらい(笑)それにこの年になつたら、もうケンカもしませぬ。まあ、結婚して、1・2年の間はお互いになじむまでは、ケンカもするでしょうけど。



中西 咲子 さん

女性は一人では生きられない

中西 毎日叱られてばかりいるような生活でしたけど、やはり今は結婚生活は精神修養のいちばんいい場所だと思つています。それに夫婦っていうのは、小さいけれどひとつの社会です。だから、結婚することによって、はじめて社会人として一人前になるといってもいいんじゃないでしょうか。事故を起さないよう、事故防止を心がけてゆく時の緊張した生き方、そこに結婚生活の最大の魅力があるように思ふんです。

白川 結婚生活は、毎日毎日勉強ですものね。

川野 私は変な女の子だったんですけど、私みたいなジャジャ馬を馴らしたんですから、主人がえらいんでしょ(笑) 私は、台所ではお皿を割る、掃除も下手ですし、ちっともいい奥さんじゃないんです。よその立派な奥さんを見ると、とても羨しくて、主人をもっと幸福にしてくれる女性が、他にいるんじゃないか、なんて不安な気持ちになるんです。だから、そういう人がいたら、私は諦めて主人をその人にあげようと思ふんです(笑) もっともよう諦めませぬ(笑)



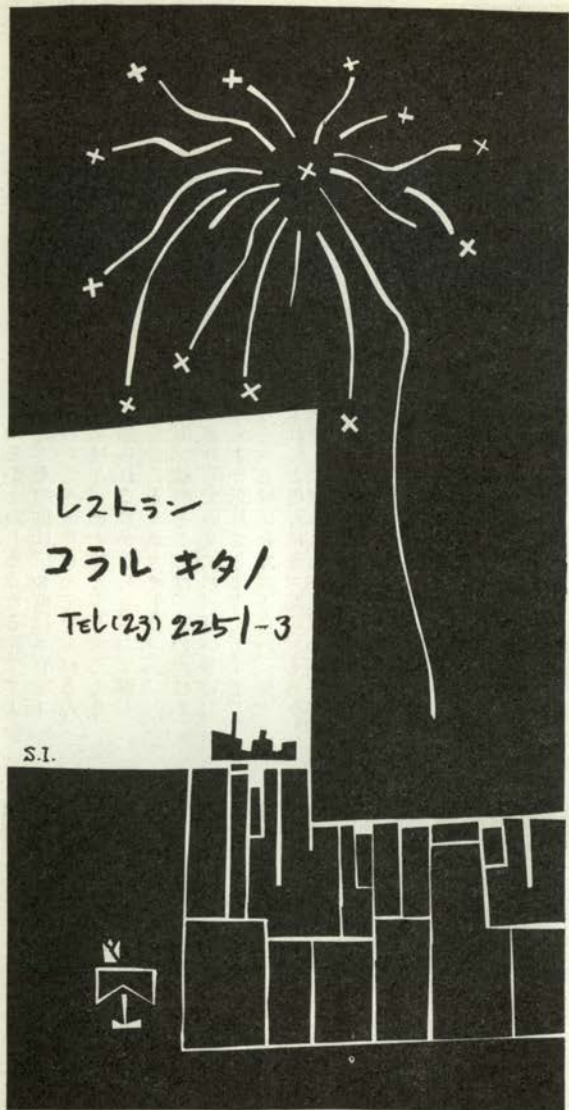
川野 彰子 さん

白川 それだけ思つていらつしゃれば、ご主人は幸福ですわ。悪い奥さんだつたら、そんなこと考えないですものね。

川野 女性がひとりて生きてゆくつていうことは、たとえ仕事を持つている場合でも大変むずかしいことだと思ひます。女性にそれほどの強さがあるかどうか、ちよつと疑問でしょうね。男なんか見向きも少ないので生きてきたという女性はいないではありませんか。

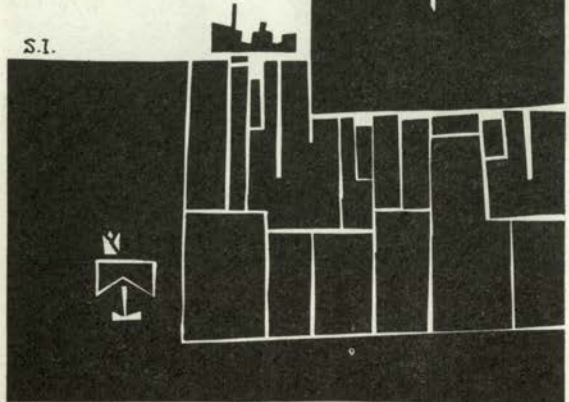
白川 やはり、自然の法則つていますかね、二人の男女が結ばれるというところは。

中西 神の摂理みたいなものを感じますね。(オリエンタルホテルにて)



レストラン
コラルキタ/
Tel(23) 2251-3

S.I.




高級紳士服
山名洋服店

神戸三宮生田筋 ㊦ 5797

女房とおまんまは目立たぬ
けれども有難いもの

先だって、若い人ばかりに集まっていたので座談会を開いたことがあるんですが、その時にある男子の学生ですが、結婚とは愛協である。いつまでも同じ相手と愛情生活を続けることは殆ど不可能のように思われて、とても自信が持てない」というんですね。そのおりに古林喜楽先生が司会をされて、具合悪いなあなんて苦笑されていましたが、まあある意味でそれは率直な意見だと思います

□ 座談会 □

結婚生活の理想

▼出席者▲荒尾親成（市立神戸美術館長）

す。そこできょうは、これから結婚される方のために、結婚のすずめ」という形でいろいろお話しただきたいのですが、どうなんでしょうか、結婚は人生の墓場だ」という言葉もあって、これは誰しもそう思っている訳でしょうが……。

松井 誰しもだなんて、そんなこと君……僕は墓場やなんて思うてないからね（笑）

荒尾 私も墓場やなんて思わぬね（笑）その点昔から名言があつて女房とおまんまは、目立たん存在やけれども有難いもんやいうてね。普通の幸福な家庭のダンナさんだ

つたら、みんなそう思ってるんたちがいますか。

私は今調停委員をやってるんですが、同僚にいろいろ話をきいてみると、どうやら恋愛結婚をした人に離婚する場合は多いようですね。なぜかという点、結局それは恋愛結婚をする者には、浮気も人が多いからです。

田中 最近の傾向で気のつくことですが、夫婦を軸とした家庭生活が、だんだん味気なくなってきたのとちがいますか。テレビその他のマスコミの刺激が家庭に侵入してきて、家庭の雰囲気は娯楽ふ

松井高男（神戸新聞編集局長）

うに、というか、軽ハクになつてきている。それで夫婦のコミュニケーション（意志の伝達）が失せつつあるような気がする。まあ、家庭生活のありかたが昔と較べて違ってきたということでしょうね。ただ用心せんと、家庭や夫婦の関係が、サクバクたるものになつてしまふ。だから、今の若い人の結婚生活の遂行には、昔とは別の新しい努力が必要でしょうね。家庭における権威と指導性をどうやって確保するか、その点で今の男性は、昔のオトツツアン以上の苦勞が出てくるでしょう。

松井 逆に味気のある家庭も出て

きているようですね。いい子供がおり、ベツピンの女房もある、そういう家庭に憧れる男が多いようで、それをいちがいに味気ないとはいえなくなつてゐるんですよ。それにしては結婚の目的は、な

んでしようかね。

田中 そこに結婚があるから（笑）松井 そうそう。そういうことです。山登りといっしょなんです。

田中 しかし、若い人を見てるとどうも思考のインタールが短かいな。長い目でものを見ない。結婚生活にしても、長い目で考えることをしない。

田中國夫（関西学院大学社会学部教授）

ただ一人の候補者を！

田中 アメリカの三百世帯の家庭を対象にして、幸福な結婚生活をおくるためにはどんな条件が必要かという問題について調査した学者があるんですが、それによると結婚する二人の家庭の経済的・文化的背景があまりちがわないこと、奥さんの学歴が夫のそれより高くないこと、それから次が他に有力な結婚の候補がなかったこと（笑）これはおもしろいね。

松井 あとになつて、あつちの人といっしょになつておけばよかつた、と後悔しては困るからね。

荒尾 落語にそういう話がありますよ。結婚式での花嫁さんの心理をいろいろしゃべるんですが、その中で、花嫁さんが「山本はんもかんんにんしておくんははれ、光田はんもかんんにんしておくんははれ」とうとうかん人と結婚せんならんことになってしもうた」いうてね(爆笑)

田中 しかし、結婚生活というのは、やっぱり善意の妥協の連続だと思えますね。育ってきた生活背景も違うし、好みも違う他人がいつしよに生活を始めるんですから、どうしてもある程度妥協しなければならぬ問題が出てくるはずですね。

松井 好みの違いというのは、大きな問題ですね。これは細かいことですけど、それが長年のうちに蓄積されて不満がつり、離婚に結びつく場合が多い。

離乳のすまない男性とは デートをやめなさい

田中 都会の家庭生活は近代化されているとはいふものの、ずいぶん不合理な点もあるはずですよ。そこへ例えばお嫁さんがはいつてくる。ところが、主人の母親ががんばっていて実権を握っているからお嫁さんが智慧を働かせて、不合理な面を改めていこうと思ってもそれができない場合がありますね。主人は主人で、なにかも母親に任せっきりというわけで、これではなんのために結婚したんだか分からない。それで、よく女子学生に話しますが、恋人ができたら、あなたも離乳がもうすみましたかときいてごらん。この質問の意味の分らない男性だったら、さっさと

デートをやめなさいとね。一流大学を出て、一流会社に入ったというような男性には、案外母親への依存性が強くて、精神的な離乳のできていない者が多いですよ。そういう男性は、家庭生活の営みに関して、全然イニシアティブをとれない。私は下宿型パパと称して居るんですが、これは上流階級の家庭によく見かけますよ。だから、学歴とか会社が一流だとかいうことに女性はごまかされるなと、いいたいですね。

悪妻いろいろ

荒尾 話にならん悪妻というのがありますよ。結婚した当初は、みなチャホヤしますけど、子供が二人でも出来てみなさい、ああ今時分帰ってでしたんか。水屋の中にシヤケがはいってるから、あれでも焼いて食べといて、というようなことになる。おちいりやすいことすけど、これは悪妻の第一歩ですよ。まあ、もらいそこねたら50年の不作でね。30%はそんなところでしよう(笑)しかし、そうはいいながら、みんなよろしくやってきてますわ。その証拠にバィヤアルサロは大繁盛(笑)女房から得られんものを、男はあいう所で補ってるわけです。

田中 ベットリ、ベットリ亭主の世話を焼く奥さんがいるね。それで亭主はイヤ気がさして別れたくなる。そんな話がありますね(笑)
荒尾 それも悪妻の第一歩(笑)
田中 適当に距離を置いて、急所だけはきゅつと押える。そうありたいですね。あんまりベタベタくっつかれてはかなわんよ。

荒尾 変な恰好をして、妙なアツパツパみたいなものを着てだらしないう姿をしているのも、やっぱり悪妻(笑)身だしなみはきちっとしたいですよ。それから、奥さんは、夫の出世をあんまり鞭達しすぎないこと。給料が安いとか、なんとかさんは課長になつたのに、うちの亭主は不甲斐ないとか、そんな愚痴をこぼすのも悪妻ですよ。

みずみずしい言葉のやりとり

松井 私は結婚生活の基礎は、平凡のようですが、相手への思いやりだと思っただけです。ところが日本人は、心の中で思っているだけで、なかなか言葉や行動にあらわさない。思いやりがないわけではないんですすけどね。

田中 その意味で面白いのは、アメリカに夫婦関係評定のための、いくつかの基準項目があるんです。例えば、愛情と無関心、依存性と自己従属性、尊敬性と軽蔑性、性的関心と性的無関心、その他いろいろな項目がある。それで愛情という項目にしても、それが更に細かく分れていて、興味があるのは愛情の深度を測る最初の問いが、「二人の間にたえずみずみずしい言葉のやりとりがあるか」となっていることです。これは非常に大切なことだと思ふ。50、60になつたら、ツといえばカーで、黙りこくっていてもいいようなものですが、若い夫婦の間には、つねに新鮮な話題、言葉のやりとりがなくてはうまくいかないでしょう。一種の生活技術として、そういう相互作用が必要ですね。ところが日本の亭主は、ほんとにしゃべら

ない。社会的地位も高く、経済力のある主人ほどそういう傾向が強い。これを鼻空気型パパという。(笑) 鼻で空気を吸うだけで、口はとじたままなんですよ。

松井 だから女性には、家庭にはいっても、社会的なつながりを持たなくてはいけない。社会的な関心と広い視野を持つことで、新鮮な話題をつねに確保して、夫との間に共通の話題をつくってゆくことが大切ですね。また、遊びも夫婦共通でなくてはならないと思います。ヨーロッパなどでは、レストランに行くのも夫婦連れ、家族連



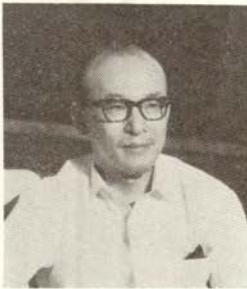
荒尾親成さん

れというのはごく普通の光景なんだけれども、日本では夫と妻が離れて歩いていたりしてね(笑) むしろではとにかく「ファミリー」という感じが実にびびりくる。荒尾 私はやはりお互いに、有難いと思うことが大切だと思いますね。自分の女房は世界一の女房だ私の夫は世界一の夫だというふうに、感謝し尊敬しあうことです。松井 よく操縦法がどうこういわれますが、ほんとは操縦するなんていう意識が介在すること自体おかしいですね。そんなこと考えるなといいたいですよ。

歴史の荒波にぶつかる姿勢

田中 それからユーモア。ユーモアのある家庭が理想的だと思うな。松井 心にゆとりが生れますね。田中 その点女性はどうも料簡が狭くてつまらぬことにこだわりがちです。ユーモアのセンスがないんだな。自己に対して神経過敏のくせに、自己反省に欠ける、それが女性の身勝手なんで、自分が誰かを好きになると、その人も自分に好意を持ってくれていると勝手に思いこんでしまうんですね(笑) 広い視野から自分をみつめる訓練を、若い人は忘れないことです。

だから、やっぱり理想の灯をあ



松井高男さん

かあかと燃やしつづけるということね。それを二人で守ってゆく、そういう心がけがあれば、つまらぬことには、ハッハッハと笑ってすましていられる。

荒尾 うちの三番目の娘なんか、朗かでユーモアがありますね。非常に暖かくていい家庭をつくっているようです。顔はよくないですけどね(笑) それに非常に健康です。

田中 私、芦屋の上流家庭などみていて、びびりするのは、子供に小児ぜんそくと自家中毒が実にたくさんあるということです。これは、母親の干渉過剰が原因なんです。盆栽みたいに子供をいじっ

ている。これではダメなんですね。女性が家庭のカラの中にちんまりと閉じこもってしまうのは、危険です。

荒尾 そういう意味では、絵を描くグループに参加したり、ママさんコーラスで歌をうたったり、趣味を母親が持つのはいいですね。松井 今、『鍵ツ子』の問題がさかんに論じられているでしょう。あれにしても、私は、母親と子供の接触を、量によってでなく質によって考えるべきだと思ふな。

田中 そうなんです。羽仁セツ子さんが「私の受けた家庭教育」と



田中国夫さん

いう本を書いていますね。それによると、お母さんのもと子さんは非常に多忙な人だったけれども、一週間の2日だけは必ず子供と接触する時間を作るようにしたという。一緒にお風呂に入るとか、寝る前に物語をきかせてやるとか。これはセツ子さんの述懐ですが、『結婚生活』とは二人の人間の平凡な結合ではなく、二人が一隻の船に乗って歴史の荒波にぶつかりそれを乗り切っていくことだ」と。そういう姿を、両親は子供に示してもらいたいですね。

松井 つまりそれぞれが主体性をもって生きるということです。



新作婚礼衣裳
展示会

1964, 9, 20(日) 午前10時~6時

オリエンタルホテル新館

2階ホール

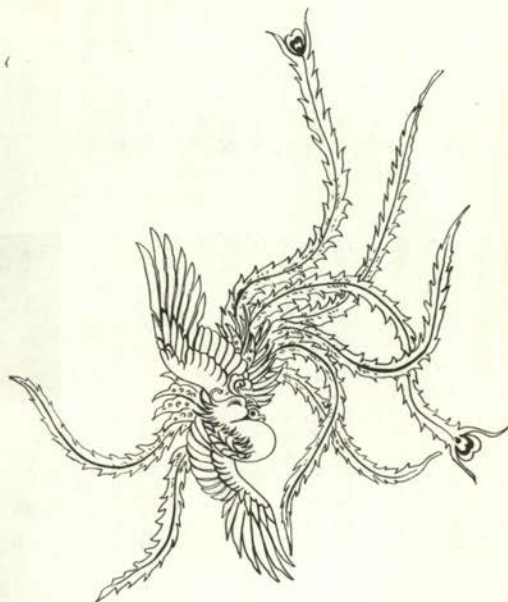


創業50年

つや袋衣裳店

神戸市生田区三宮町3丁目18(大丸前)
TEL. (33) 0360-7786

ご婚儀のおしとくに



儀式用品・扇子

富田屋

神戸元町4丁目 TEL. (34) 2334-6927

●アンケート

わが華麗なる結婚式

- ①あなた方のご結婚の挙式はいつどこでなさいましたか。
 - ②挙式から新婚旅行を終るまでの間の出来事とかエピソードがありましたら………
 - ③これから結婚なさる方にアドバイスがありましたらお教えください。
- お答えはご夫婦でお考えいただければ幸いです。



ばとも角、他人同志の合同結婚式は何かとむづかしく、なるべくならさけるべきだと考えます。

▼西条 凡児 (漫談家)

- ①結婚式は一昨年長男がしましたが、私達は全然しません。
- ②故に新婚旅行もせず、ただその日その日生きることにのみ、けんめいでした。
- ③式を何億かけてしても、それが売名やみえではすぐ別れます。人生で一番楽しいものらしいですが、なかつても30年を、まあいんせせず暮しとる見本がここにありません。その時の境遇にさからわず自分の気持を冷静に、事後の泣き事は近所めいわく。まあ責任をもつてやりなさい。

▼平野 清子

- ①昭和10年頃、自家用挙式ゆえ、

神や仏とは無縁。でも、結構神聖に暮しています。

②新婚旅行なんか、恋愛中に互いに満喫したので新味はなく、戦争中、スパイ容疑で憲兵に夫婦してつかまつた時は、互いに呼び合つて、「不如帰」の浪子と武雄のようにロマンティックでした。

③恋愛結婚が本命ですけど、この頃のように、愛するとか愛さないとかいふコトバが、クラシックになつてしまつたのでは、恋愛などを通さず、ぶつつけ本番しかないでしょう。結婚はリコンの前提ではない事だけはたしかです。

▼青木 一夫 (画家)

- ①昭和10年4月5日 加納町の柴の家

②挙式の翌日、勤めに出来ました。理由は、大げさなことが嫌だったから。(貧しかったからかも知れない)しかし、私の両親がいたら、きっとどこかへ行かしたと思います。経済的にも行けなかつたから、やはり最初の理由が当を得ているようです。

娘の結婚の際は、行って欲しかったし、行かせたのだから、今では新婚旅行はした方がよいと思つています。

③誠意を行動で、さりげなくつくし合つてほしいと思います。

▼服部 正 (大阪社会事業短期大学教授)

- ①昭和22年2月16日神戸栄光教会 (生田区下山手通4丁目)

②物資の不自由な時代で、式場のスリーブのたきぎは、2人でかつ

▼朝比奈 隆 (指揮者) 町子

- ①宝塚ホテル、東京A1 (エーワン) レストラン、京都円山の中華料理店、三ヶ所で各所の悪友とガヤガヤ披露

②三ヶ所の披露廻りで花ヨメはクタクタ。神戸へ戻つた時はグロッキーでした。開戦直前で熱海のホテルも寒くて、ウイスキーばかりのんでいました。

③披露なんかやめてのんびり旅行して、淡白でいいからゆっくり友人の招待でもすること。

▼秋山 登 (大洋ホエールズ投手)

- ①昭和33年1月8日 岡山の、新松の江

②挙式後、直ぐキャンプ・インだったので新婚旅行はシーズン後11月に行きました。

③私達は異例の合同結婚式を挙げましたが、姉妹等の親類関係なら

いで運びました。しかし、在日宣教師団代表カーブ博士夫妻のお祝いのことばや、竹中郁先生の詩の朗読などで、精神的にはゆたかな結婚式でした。

③挙式前に、家族計画について十分に話しあっておくこと。新民法の意義をよく理解すること。——例えば、結婚後、夫の氏を名のか、妻の氏を名のかは合議の上できめるべきです。自分に信仰がなければ、無宗教の結婚式をあげること。——式のために宗教を利用してはいけません。

▼原口ちから（医師）

①昭和33年3月17日 明海ビル地下食堂（今はありません）

②仲人春木一夫氏が新婚旅行について来て隣の部屋で泊まったこと途中飲み過ぎて野宿しそうになったこと。

③会費制度で、つまらぬお金は使わぬこと。二人で出来るだけのことをしなさい。

これは間違っていたと思ったら翌日もさっさと廻れ右をすること。

▼杉田喜久枝（婦人民主クラブ東神戸支部長）

①昭和36年5月24日家で挙式。5月28日は冲天閣で親せき、友人を招いて披露。6月5日友達がお祝いのダンスパーティーを開いてくれました。

②新婚旅行の折、ホテルでの夕食の時、主人のする通りに食事が終り、さてアイスクリームのスポンとコーヒーのスポンを間違えて、誰も見ていないと思って、頭を上げたらウエイトレスの目と会って

彼女ニヤリと笑って向うに行った時のきまり悪かったこと。

③新婚旅行のお宿は必ずホテルをお勧めします。大きな外国人の中で見ると日本人の妻は、如何にも可愛い、かれんに見えるもののようにです。又、外国人ばかりの中に見えることは、大変気楽でいろいろ見られないだけでもいい。

▼佐々木侃司（サントリーKK宣伝部）

①昭和37年1月26日 大阪高島屋
②八丈島へ飛行機で行きましたが時期が時期ですから人が少なく観光ホテルはカンゲイしてくれるしサービス良しで、ジャマ者もいない。旅行は人の行かないところへ行くべきです。

③私の場合は静かな結婚式でしてパーティもしませんでした。ですから静かな家庭になります。友人達も静かに祝ってくれます。静かな嬉しさは大変いいものです。それでもつかれますから、やはり健康に気をつけねばなりません。

▼夢路いとし（漫才家）

①昭和25年。元の中の島公園の豊国神社

②式場にかづらを忘れ取りに戻った。

③一生の問題ですので、思い出さずしても多くのこして下さい。

▼上尾 忠生（画家）

▼上尾有里恵

①1964年1月26日午前10時京都平安神宮

②雪少ないチャンスを見て信州崖の湯の宿から牛伏寺詣りをした折、大雪に出逢い、とんだところ

ピンク・コーナー



すみちよという歌手が「こんにちは赤ちゃん」でレコード大賞をとって以来、歌謡の世界でも、おあさんものが大はやり。母性愛だけのさばってしまつて、オヤジの方はまるで、給料の運搬人さんに過ぎないといつたていらくです。だから子供の方もバカにしてしまつて、パパはロケットのように、おみやげもつてビルの窓から一直線に帰つてこい」と歌っている。よっぽど母親のお仕込みがいいんでしようね。

この哀れな父親のために、万丈の気を吐いてくれたのが益田喜頓の「娘よ」という歌です。やがては嫁ぎ行く娘のために、どれくらい父親というものが寂しがっていることか、しみじみとした「父性愛」が心をこめて歌われておりました。父性愛はとくに娘に集中されるらしく、九州へ四泊五日の修学旅行に出かけた娘の身を案じた夜もロクロク寝られなかったというパパを何人も知っておりまして。娘の方も、この父性愛にこたえて、ママの死んだ家庭でしようか、中尾ミエが「パパのことならまかせてよ」と、たのしいことをいってくれます。そして、目玉焼きをつくってくれたり、いっしょにダンスをしてくれたりするのですが、しかし、ねえ娘よ。ベッドの中のママの代わりはできないよ。まあエッチなパパ。(T)

宿へ帰れず、皆に心配をかけた。
ちなみに写生をかねた新婚旅行
コースをご紹介。

ミヤコホテル↓信州崖の湯↓小諸
↓東京↓伊豆(とくに俗界を離れ
た北ア全望の崖の湯は感動的で
す)

③特に迷信・縁起をきらう現代人
でも、年寄りの名アドバイスに助
けられ、結婚後の幸福を生む礎と
なるものです。

▼O・W・シルマー(ドイツ領事館勤務)

①昭和25年2月15日に結婚いたし
ましたが、先妻の子供が4人も居
りましたので式を挙げる余裕があ
りませんでした。

②新婚旅行の代りに子供四人を連
れて宝塚へ一日遊びに行きました

③お互いの人格を尊重する事が円
満な家庭を築く第一条件だと考え
ます。

▼有井 基(神戸新聞記者)

①1957年4月29日 大阪国際
ホテル

②独身時代の習性で、生活費を全
部「旅」につぎこみ、一〇〇%赤
字からスタート致しました。以後
生活感覚も月おくれ雑誌のみです
③結婚式は二人だけで、葬式は一
人つきりするのが理想です。僕
も次ぎのチャンスには実践するつ
もりです。

▼河合慎吾(神戸外大教授)

①1943年12月 東京都赤坂日
枝神社

②とにかく、嫌な時代でした。た
とえば、新婚旅行のために予約し
ておいた箱根のホテルが、直前に

その筋の用に供するためとかで、
キャンセルされるなど。旅行な
どするものか」と腹をたてた結果
新婚旅行用の着物は、一度も袖を
とおさぬまま、以来20年間タンス
の底におきっぱなしです。

③特にいいこともありません
がしいいといえば、家のなかに自
分の場所をもう一人は幸いである”
(ご存知テレビ結婚式のキャッチ
フレーズです) かもしれませんが
「家庭の幸福は諸悪の本(太宰
治)」ということも、ときには思い
出してくださいということ。まあ
他人のアドバイスや思わくなど、
アテにも気にもせず二人でやるこ
とでしようね。葬式の方なら、い
たいことがウンとあるのですが
……。

▼及川英雄(作家)

①今から27年前に、当時西灘村と
いつていたところ灘教会で挙行。

②女房は大へん偏食家で、それを
知らないばかりに旅先ではかな
り閉口したらしいが、こちらは、
えらいまた気をつこうではあるのや
な、と花嫁さんのはにかみくらい
に思っていた。

③式は出来るだけ簡単に、無駄な
経費は使わぬこと。新婚旅行は少
々無理算段をしてもよいから、出
来るだけ豪華なプランを樹てるこ
と。子供が生れると、なかなか容
易に旅行など出来ないから、新婚
旅行の愉しい思い出は十年分くら
いつくっておく方がよろしい。こ
れは、我が山妻も同意見也。



ピンク・コーナー



映画は見ないくせに、新聞や週
刊誌の芸能欄はよく見るといふ男
が大発見をしました。その例とし
て、ある新進女優のことは紹介
しましょう。いわく「私は新人よ
だからそのつもりで人一倍の苦勞
をしなくては、そこで体当りで一
生懸命にやるだけよ」

これだけを読むと、なんとけな
げな心がけだと感心するでしょ
う。しかし「体当たり」で演技や
役柄に取り組むとはどこにも書い
てない。では「体当たりでいった
いなにをするのか」といえば、結
局ハダカになる役を引き受けただ
けに過ぎません。この女優さんば
かりではない。もし芸能欄で「体
当たり」ということばに出あった
ら内容は読まずともよろしい。
「体当たりとはハダカになること
と見つけたり」大発見です。

なるほど、半分配キチガイみた
いな映画制作者のご注文で、意味
もなくハダカになることは、十代
の女優さんにはさぞ辛いことだろ
うとお察し申し上げる。しかし
「体当たり」すなわち「全力でぶ
つかる」といった最上級の表現を
乱発するほどのことがらではあり
ません。またそれで出世が約束さ
れるというものでもない。映画界
というものは、そんな大げさなこ
とばより、こっそり内緒で、首脳
部に深夜「体当たり」に及んだ方
が出世は早いと思うよ。(T)



神戸を楽しむ 私のコース②

松岡寛一 (洋画家)



「留美」の店内 写真右はママの成田留美さん

たまに出かけてみる近頃の三宮
界限の夜は、どこへ行っても若い
人が多い。ということは僕が年よ
ったということであろう。僕の年
配では、遊蕩の町は、もうどこへ
行っても、——左様、少しきさな
いいかたをすれば、しょせん心こ
くるのはむなしさだけなのだが、
そのむなしさと対面しながら、カ
ウンターについた肘にあごをのせ
て、ハイボールなどを傾けるのを
いまだに僕はそう嫌いではないの
だから笑止である。そうした僕を
「三宮の夜のコース」案内の資格

者と見なしたのは「神戸っ子」編
集氏の好意ある誤解であって、僕
は、ただ僕好みの店を二、三知っ
ているにすぎぬ。到底通人ぶった
ガイドの任は果せない。
さて僕好みの店といえは、経営
者の（たいがいはその店のマダム
というわけだが）人柄や気ごころ
にも慣れた、しぜんおつきあいの
歳月も長い店ということになる。
スタンドと称するカウンター様式
の店で、そこでは声高な理屈っば
い芸術論や、あたりかまわぬ歌声
などがきこえない店。マダムの取

り巻き常連がとぐろをまいていな
い店。そのマダムが絶世の美人で、
聡明で、利巧者で、しっかり者で
ある必要はさらさらない。しかし
文字どおりの「いい女」でなけれ
ばならない店。それからひそかに
つけ加えるが、お勤定の安い店。
なおつけ加えるなら、ほんの僅か
しか散財しないのにマダム自身が
扉まで送り出してくれる店。それ
からまた、たまにしか行かないの
にクリスマスなどの小さい贈りものな
どを残しておいてくれる店。たま
に行く、「アラ偶然ね、センセイ
のことをふと思いついていたの」
などといわない店——

そんな店しか行かない貧乏でケ
チで気むづかしい僕が、たまに行
くうちにもう数年にもなる店が、
生田新道から東門筋を上って二つ
めの小路を東へ入り、最初に南へ
くだる小路の東側二三軒目にある
レモンいろの可憐な看板が灯をつ
けている、その店の名は「留美」
* スタンド「留美」生田区中山
手通1丁目91。TEL 031794

神戸っ子の味覚に
ぴったり、又平の早馴れ鮓



このたび店内を新装いたしました。

神戸三宮生田ノ社ノ西

鮓の又平

電話・三の宮㊿0935

最高を誇る神戸肉!

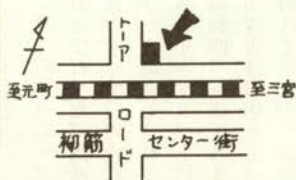
鉄板料理定食
650円

土、日、喫茶
キャンドルタイム



Grill & Tea Room
バター焼
喫茶 **candle**

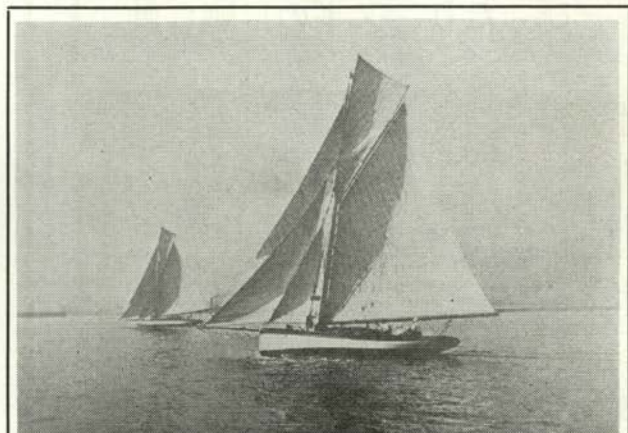
きゃんどうる



クラス会・30名様
宴会・¥ 650より
営業時間
PM 5.00~AM 1.00
神戸三宮トアロード
高架山側東角㊿99991

神戸遊戯誌

13



写真上は1928年頃撮影。神戸港に行く「きく」号前方ヨットは外人所有のもの。
写真下は「きく」を操舵する故柴田音吉氏1928年頃撮影（写真提供は柴田高明氏）

前回にも書いたように、日本人がヨットに乗り出したのは昭和初年からだが、神戸人では故人の柴田音吉氏が第一号だった。その当時はヨットに乗るのは外人ばかりで、敏馬にあったK・S・Cコウベ・セーリング・クラブ（明治三十五年誕生）のポートハウスには、いつも一人乗りか二人乗りのヨットが十五、六艘はあった。また神戸港内に大型ヨット七、八艘の、K・Y・C（コウベ・ヨット・クラブ）があり柴田氏はその一員であった。柴田氏は今も元町四丁目にある柴田音吉洋服店の先代だが、リオン織物を研究にフランスへ二度留学したほどのモダンボーイだったので、知り合いの貿易商を通じていつの間にかあこがれのヨットを手に入れていた。「きく」という名のかなり大きなヨットで六人が乗れたが、うしろに小さなポートもついていた。

柴田氏は「きく」をいつも明石港においていたが、明

石から垂水沖を通って神戸までよく海上をすべらせたもので、時には瀬戸内海を通って別府まで行った。当時はヨットという名さえ知らない日本人が多くて、同氏はよくみんなから「ヨットって何だね？」と聞き返されて苦笑させられたが、いつもしゃれたスタイルでヨットに乗り、心の中では得意満面だった。昭和四、五年ごろまだ十四、五歳の少年だった現在の柴田音吉洋服店々主の柴田高明氏は、よく父の音吉氏に誘われて「きく」に乗せてもらったものだが、当時を回想して「父は外人とのヨットレースに出ていましたが性能のいい外人の船は風があると負けるのですが、風がないと瀬戸内海の早い潮流にのって古めかしい父のヨットが優勝するんですよ。勝って大きなカップをもらい四国の高松港だったと思うのですが、そこで祝賀会が開かれたのをおぼえています。そこで父は堂々と英語でお礼の演説をやったものです。そ

ヨット ② 青木重雄

れが、ダブルの紺色のセビロに白いズボン、白靴という服装ですからイキなものでした。しかも上着のボタンには罎のマークのボタンがついていたのを、今でも誇らしい気持ちで思い出すことができます……」と語っている。おそらく、この服装は当時の外人の乗っていたヨットがアメリカから直接持ってきたものが多かったのだ、自然とアメリカの海軍さんのスタイルに影響されたものだったらしい。同じ頃別の日本人の乗っていたヨットに「大関」というのがあったが、持ち主がどういいう人だったかについて知らずに終わってしまった。どうもヨットの名前から推して灘の酒屋さんだったように思う——と、高明氏はつけ加えている。だが、その後しだいに国際情勢が悪くなってきて、ヨットに乗っていると、どうしても派手に目立つので日支事変の頃ついに涙を吞んで音吉氏はヨットを解体してしまったそうだ。

神戸で戦前最初に生まれた日本人のみのヨットクラブは須磨の楽水会だった。もともとの初めの頃は漕艇（スカール）ばかりだったからヨットクラブというよりボートクラブだった。西光可左衛門という人で、東須磨に住む旧家の出の人が、海軍調の指導のもとに若宮浜（若宮町四丁目）にボート（スカール）の会をつくったのがはじまりで、会員は約二十名ぐらいいだった。だが、十二年になると、若宮浜の形ばかりのボートハウスをやめて、西方にある天神橋の橋の下を利用することになり（無料だったので）舟を移した。このころからである……個人所有のヨットが二、三隻一緒に置かれるようになったのは。そして、同年ごろから須磨の海にはじめて会員のヨットが浮かぶこととなった。だから、楽水会が正式にヨットクラブと呼べるのは昭和十二年からあとといつてよいだろう。ところが、当時はボートハウスなどこそ貧弱な姿だったが、スカールもヨットもまだ庶民のスポーツにはなっておらず、会費も高かったので、ブルジョアの坊っちゃんやお嬢ちゃんたちの集まりといった感があった。その頃ボート部には若い女性も交っていた。

さて、大東亜戦争に突入すると、みるみる兵隊に取られる会員の数が多くなって、楽水会はピンチを迎えることとなったが、それでも残った学生や、エンジンニアで徴兵をまぬかれた会員たちの努力で、どうにか存在しつづけることができた。だが、資材不足のためなかなか思うようにはゆかなかった。終戦を迎えた時はどのヨットも痛みつばなし、帆はボロボロで手がつけられないというありさまであった。戦前からのベテラン会員で小池重喜氏（現在横浜在住、沖縄航路運賃同盟事務局勤務）の話によると、当時、アメリカの進駐軍に見つけられて二、三隻徴発されたこともあったそうだ。二十一年になると多少落ちついてきて、楽水会所有の天幕で会員たちがヨットの帆を作りなおしたりしたものだが、今から思えば、全く、鉢の木の美談、だったわけだ。だが、戦後インフレで会の経営がうまく行かず、世の中全体が苦しい時だったから、いくらヨット好きでも本当はまだヨットに乗って遊ぶ気など起こらなかったのが当たり前で、こういうムードを反映してさすがに二十六年ごろまでは会もスランプ状態の連続。同年七月になってはじめてボート部とヨット部とが分立したが、ボート部の方はその後活躍がストップしてしまった。その点ヨット部の方は小池氏らが中心となって、若い人たちを指導したので、やっと楽水会も息を吹き返し始めた。会計の経営方針もすつかり変え、昔のように金持ちだけがエンジンヨイするヨットの会ではなく、だれでも気軽に入会できるようにしていた。お陰で、入会希望者はふえ、しまいには人選に困るほどだった。資材不足当時は二隻のヨットに二十名の会員、つまり花嫁一人にムコ十人というすさまじい状態……サラーマン（三菱重工、川崎重などの独身者）や学生がほとんどだったが、ペンキ塗りからヨットの補修まですべて会員の手でやったものだ。この頃はまだ日本ヨット協会には入っていないかったが、船齢が相当いっていたので、会費はほとんどが舟の修理費にあてられる有様。歴史ある楽水会の涙ぐましい再建ぶりだった。

神戸うまいもん巡礼

No. 25

赤尾兜子

日本料理の巻

各国料理や中国料理には一応ことかかない神戸だが、日本料理、それも精進料理となるとひどくさびしい。開港地という土地柄、料理も、海外人の嗜好に調子をあわせてきたものだから、その色彩にまけて発達しなかつたというわけだ。そうした事情から、名実ともに秀抜な精進料理は、京都と大阪の一部へ訪ねてみるほかない。

それはそれとして、神戸で何とかな、その嗜好を果させてくれる店はないか、という段になると、「普茶寮」(生田区加納町二丁目、布引への市電筋西入る)の黄蘗(おうばく)普茶(ふちや)料理をすすめる。

普茶料理とは、宇治の黄蘗山万福寺の開山、隠元禪師が日本へ来た時、従ってきた明(みん)の僧たちが日本の材料で中国ふうにつくった精進料理で、それらの僧の帰化で徳川時代初期に定着した。普茶というのは、仏に供えたものを広く人々と一緒に分けて食べるという意味。

ところで、この店は開店いらい四十年、むろん万福寺の流れをくみ、先代の馬場誓一さん亡きあと、誓一さんについて習熟した加代子さん(長男の嫁)が作っている。献立は、季節によって野菜の品ぶれが変るが、まず抹茶とお菓子が出たあと、

先附(花ゆりね、しいたけなど)

麻腐(まふ)——ごま豆腐わさび

浸し物——しいたけ、きゅうり、うどの白酢あえなど

笋羹(しゅんかん)——たけのこ、なす、ぎんなん、

豆、栗などのたき合わせ

附揚げ(梅ぼし、青とうがらし、はじがみなどの天ぷら)

ら)

澄免(すめ)すまし汁

などが順に出て、最後のしめくりが茶飯と果物というコースである。

六畳が三つあり、都心にありながら竹であんだ扉に青い笹の葉ずれの音を聞きながら、賞味できるのは、さわやかでもあり、珍景でもある。

料理のさばきはすべて日本ふうになしきってあるがほとんど何ひとつ食べ残さないうまいぐあいは、献立がみごとに計算されているからであろう。

夏場には出るまっ白で歯にあたる葛(くず)そうめんの舌触は、とりわけ雅味が高い。

何しろ手がこんだ料理なので、ゆきずりの賞味はむづかしい。それだけ手間をかける時間がある。前もつての予約が絶対必要。コースで一人前二千円——三千円。

料理というのはいささか大げさすぎるが、京の風味が楽しめるということで「菱阿見」(生田区三宮センター街東入口北側)はマークしておいていい。

日本料理屋「剣菱」を三十四年秋改造、その「菱」を残し茶道の黙阿弥の「阿弥」にあやかって店名をとったというだけあって、構えに竹をたくさん使い、お盆や器も京風という風雅を店の柱にしている。

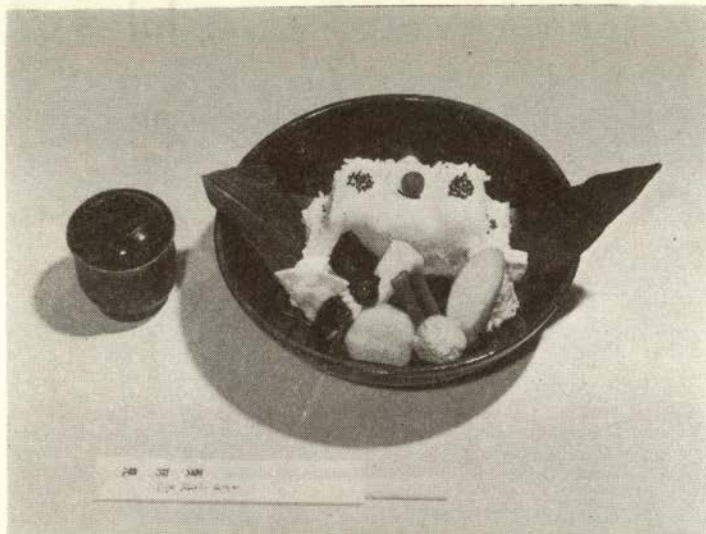
京都生まれの主人亡きあと、未亡人が店を仕切っているが、物腰はいたってやわらか。

この店の「点心」と「ぶぶ漬け」が神戸としては珍らしい。「点心」とはもともと仏家で使った言葉で、虫押

えに軽い物をとる。つまり食前、食後にかかわらず、退屈している、その空心に点ずるから点心といった、それが日本の茶道で軽い食事のことを指すようになったのである。

おかみさんが裏千家の茶を手がけた人だから、店では点心といっているが、まあかんにいうと、その内容は、幕の内ふうの押し飯と思えばよい。かしわのダンゴ湯葉、高野豆腐、たまご焼、季節のクリ、松たけ——などの煮物に白みその汁がつく。二百五十円。

「ぶぶ漬け」はお茶漬けの京都弁である。なす、きゅうり、きざみたくあんのごまあえ、小梅、塩こんぶ、し



「菱阿弥」の点心。250円

ようが——すぐきやしバ漬けまでそろえてあって、甚がこまかく、ただのぶぶ漬けといっても、そこは味わい深い。

営業だから利益の無視はできないが、おかみさんは「なるだけ京都の材料をそろえたい、かぶら蒸しや風呂ふき、冬場は南禅寺蒸しもしてみたく、一時してみたくともあったが、理解してくれるお客がすくなく、営業として成りたない」といかにも残念そうな口ぶりである。神戸といっても多角の味覚があるのがこのましい。そんな観点からも、この店など、客の方から関心を持ちちうって、風雅の味をよりゆたかにさせたものである。



「普茶寮」の黄檗普茶料理

紳士入門 ⑬

How to be a gentleman

同伴紳士

文・竹田洋太郎
え・鴨居玲

最近、政府の高官をはじめ、財界人、学者といった人たちも海外出張の場合、夫人を同伴することが行なわれはじめた。のみならず国内においても諸種の社交的会合にはカッパルで出席するのが慣例となりつつある。

日本における夫人の地位(婦人の地位ではない)の向上は戦後めざましいものがあり、さらに経済の発展、貿易自由化、開放経済の時代となった今日、夫人同伴が欧米の水準に近づくのは当然といえよう。いわば「第二の鹿鳴館時代」である。だが、久しくその風習のなかったわが国の紳士が、いまひたすら「同伴時代」に突入することは、大きな危険を伴うものであることをまず警告しておかねばならない。

その理由をのべる前に、次の例を挙げておこう。

かのロータリー・クラブは世界的に有名、かつ有力な社交団体であるが、これが現在の発展を見るに至ったのはなぜか。女性の会員を入れなかったからである。夫妻同伴は年数回の家族会や遠足に限られ、女性がクラブについて発言することを許さない。これが女尊男卑の国から発達したことに留意すべきであろう。

またイギリスにおいては、紳士はそれぞれの階層、出身学校などに応じて「クラブ」なるものに加入しているが、一流であればあるほど、クラブ員の夫人といえども門戸を閉じているのである。もっとも、男性のレクリエーションを担当する女性についてはその限りでないようだが。

一方、米国では社会階層をとわず強い力をもつ団体にフリーメーソンおよびその分派がある。これも特殊な場合を除いて女人禁制であることはいうまでもない。ロータリー・クラブやフリーメーソンが戦前わが国において「スパイの巣窟」といわれたのは故なしとしない。軍部や警察よりもこわい存在、即ち女性から秘密を守ろうとする閉鎖性が、かえって軍部、警察の疑いを招いたのである。

つまり、英米においては、夫人同伴が一般の慣習とされている一方、あくまで女性の圧制をのがれて男性の休息をとり戻す機関が存在する。だから、わが国でもそのような機関をつくってから夫人同伴の慣習を普及すべきであろう。

そういえば、日本には「夫人」に対しては閉鎖的だが「ご婦人」(落語用語を借用する)の多数持る各種施設が存在するからいいじゃないか、と反論される向きもある。

しかし、失礼ないい方だが、この種のご婦人は男性のレクリエーション(気分転換とでもいえよう)に役立つことはあっても、真の「休息」と「自由」には役立たないことを承知ありたい。

これらの問題を十分検討した後において、はじめて紳士としての同伴の慣習を受け入れられるのである。また同伴することによってとくに海外においてはその収獲を

「別冊紳士入門図解」



「男になろう!!」

レイ・カモイ

大ならしめることができる。

帝人の大屋晋三社長は実力者政子夫人を同伴してソ連欧州を訪れ、フルシチョフ首相の心胆を寒からしめた。夫人同伴でパリを訪れるのは、弁当を持って宴会に出かけるようなものだといわれながら、R・K画伯は同伴でパリに二年滞在し、その知識経験を深めている。たまたまこの二人を見た女優のA・Wさんが異境での寂寥に堪えられず、適当な男性をパリで手に入れて帰国したという話まである。

したがって、紳士たるもの、大いに同伴で元町を歩き、タコ焼きをたべ、時にはバー、スタンド等で杯をほすことも許される。ただしである。紳士として真の休息の場を確保しておくことを忘れないように。

悲しむべきことながら、近年紳士が休息の場として選んでいるのが実は職場なのである。社長室は冷房が適当にきき、ふんわかとしたソファはいねむりに好適である。相撲をテレビで鑑賞していてもチャンネルを変えろと命令するものもない。

社長がこれでは、社員はみな習うものである。仕事中にマージャンの浮き沈みを計算し、野球でささやかなバクチをしているとあれば社業の発展は望めない。

紳士はいかなる場所に同伴で、いかなる場所に単独で出かけるかを慎重に考えるべき時代である。この際紳士は団結して、ルールを決定し、それを夫人に強制すべきであろう。(といったって、夫人に果敢な抵抗を試みる勇士はまれであろう。残念なことである。)

ボケットジャーナル



金山平三画伯の遺作五百点

神戸、花隈の出身の画家故金山平三氏はあまり絵を売らず、奥さんも奥床しい人柄だったということが最近話題になっていいる。川崎重工の手塚会長は若い頃から金山画伯と親交があり、画伯の私生活にもなにくれとなく援助の手を差しのべていたが、遺作約五百点を金山夫人の依頼で川重が保管することになった。手塚会長は「金山さんとは長いつき合いだが、本当に絵を愛した人だった。私は絵はよく分からず、好みも色彩も金山さんとは意見が合わなかったけれども非常に素晴らしいものが多いようだ。神戸出身なのに地元の人にはあまり金山画伯の絵を見てないので、十月に神戸大丸で遺作展を開いて存分に鑑賞してもらおう。その後は川重で責任を持って保管する考えだが、県、市が美術館をつくるべきだと思う」と

言っている。一企業が一家の絵を独占的に保管するのも止むを得まいが、これを機会に手塚会長が提案しているように金井知事や原口市長は立派な美術館建設に乗り出したらどうかという意見が財界にも多い。

盛会だった8の会

8月8日、第二回の「8の会」が神戸市御影の小原会館で開かれた。昨年は神戸相楽園であったが雨。ことしは天候にめぐまれ、大坂湾を見おろす場所にめぐ



神戸の街を見降して盛会な「8の会」

まれ、料理にめぐまれ、サントリービールにめぐまれた。夕方6時から9時すぎにいたるまで京阪神の美術文学、新聞その他モロモロの、人物百人あまりが語りあい、竹中郁氏の司会で珍芸をひろうした。ビールは例によってサントリーの藤本義一氏、料理は吉原治良氏、場所はもちろん家元小原豊雲氏のキモイリによるものだった。

惜しまれる

花隈の名妓歌丸さんの死

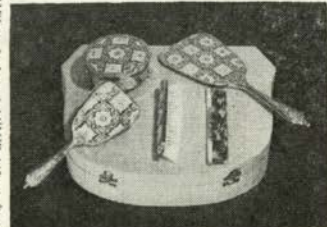
「東のまり千代、西の歌丸」とまで謳われた。花隈おどり^{（59才）}の立役者歌丸さん（59才）が、去る8月18日肺ガンに冒され不帰の人となった。先の14日には花隈検番の邦舞指導、尾上菊之丞師ハワイ客死の報が入り、関係者にショックを与えたばかりのところだ。

一番弟子の歌丸さんには周りの心づかいで、菊之丞師の死を耳に入れなかったという。

花隈の芸妓となつて40数年、尾上菊弥の名をもつ踊りの名手であり、また人望も厚く、梶太郎、千代栄、若奴さんなどと花隈検番の柱でもあった。

8月22日下山手通りの本寿寺で葬儀が行われたが、百人近い神戸財界の面々、また花隈、福原、先斗町、北

☆はいからコーナリ



花隈さんにごんな豪華なブレゼンの花紐かがでしよう。西ドイツ製のシナ、フグリースは手鏡、ヘアアイブラ、黒茶、クリーム色などの5点金色、工クな模様を描かれた皮と金属で細工された厚な感じ。M.C.C.O. (エスターニートン) ☆ランチ・タイム



三宮センター街星電社裏の南へ入る露路の中段に、一品料理の「キング食堂」がある。黒板にその日の献立表が書かれ、マナガツオ90円、サケの塩焼70円、エビフライ130円、小イモ50円など。おぶくろの味。的家庭料理を自分の好みで注文できる。市役所、NHK、証券マンなど客筋もよく取り回さない小ざつぱりした店。写真左より鯛の煮付70円、ハムサラダ90円、チリメン御50円、タコのすもの50円、ミソ汁15円、小イカ80円

新地、南地の芸妓など、寺からあふれる参拝者であった。舞台でいつも女房役をつとめた千代栄さんは「奥



丸さん 歌

ゆかしく、はかりしれない踊りの妙味を持った方で、そのひきしまった舞台は、素晴しいものでした。昨年の花隈おどりの「北州」が最後の舞台になってしまっ

た。「……と惜しまれてい

計時花



踊りのすずめ

阿波踊り（阿呆踊りではアリマセン）が終りました。踊るアホウに見るアホウ、同じアホウなら踊らにヤソソソソといっただわけで、わが、神戸っ子連も大挙して徳島に

産車でドライブ、美術家としてタンマリ収穫をもって帰ったのは一昨年のごとだが、このほどその一端を氏がカメラと筆とで一冊の本「車のひとりとたび・ヨロロッパの美と風土」にまとめた。美術愛好家、ドライブ、それにヨロッパへの旅情を味わいたい人にもいいものだろう。なお同書の出版記念会は9月17日夜、国際会館で開かれる。（創元社刊・780円）

出版された二冊の詩集

神戸在住の二人の女性詩人が、最近相ついで詩集を出した。多田智満子さんの「薔薇宇宙」福井久子さんの「街の中」がそれ。もともと神戸は詩活動の盛んなところだが、この二冊の詩集出版によって、神戸の詩

壇はさらに活気を加えてゆくにちがいない。

多田さん、福井さんの親しい友人達が集まって、8月23日、六甲荘で出版記念会が行なわれたが、御主人同伴で会場にあらわれた両女史に、参会者から祝福の拍手がおくられた。

きもの本「珍趣」

——きもの・あ・ら・も——
1ど——優雅な冊子の第17号が、呉服のちんがら屋で発行された。ことしは日本の伝統美を生かした模様が流行している。岡部伊都子先生も筆をよせられている豪華版。古典模様の流行にマッチした取材を、姫路、白鷺城を紹介している。きもの愛好者に喜ばれている。

乗りこみ、大いに踊るアホウぶりを披露してまいった次第。おかげさまで出場二年目にして、見事優勝旗を獲得、踊るアホウのチャンピオンとなりました。この名譽、祝うべし、祝うべし。
いいですねえ、あのリズム。あの踊り。あの感じ。チャンカチャンカ……。チャンカチャンカ……。あのお囃子の音が、今も耳に残っています。時を忘れ、我を忘れ、憂き世を忘れ、そうして手を振り、足を蹴り、よかったですねえ、ほんとに。

神戸にも港祭りがございます。これはまたなんとしょとやかなお祭りでしょう。美人の市内パレードや懐古行列を見物するだけの、とても静かなるお祭りです。だけど、お祭りを見物するなんてちと変じゃないですか。見るアホウにはなりたかあないですからねえ。足をあげてうかれてみないと、お祭り気分は出ませないや。踊って踊って踊り狂うような港祭りにした

(E)

▽百店会だより△

★ 7月母誌上で行いました、シカチクイズには、多数応募いただきましたありがとうございました。正解は「スギヤ」でした。抽選の結果、左記の皆さまに「コウベ・マップチーフ」をお送りいたしました。

クイズ当選者

長野幸子様 落合琴子様 酒井淑子様 樋口邦子様 藤戸淑子様 原光太郎様 島田邦博様 山口和子様 田中幸子様 白佐愛子様 他30名様

★ 男子服飾の店マックでは9月1日より来春にかけて新しい企画で秋冬のものを一勢に揃えます。企画の人の服も、オシャレをもっと身近な問題として扱うために、毎月〇〇君の生活環境、趣味などによって、毎月ちがったニュアンスの展示を、お楽しみいただけると思います。お気軽にお立ち寄りください。セントラル三宮本店では紺色を主体にした高校生、大卒1年生位までのものを。トアロードのアイビーショップでは大卒2年以上を対象にしたと映くオリブ・茶色・チャコールグレイなどの色調を主としています。

★ 舶来品ショップ元町2丁目のサノハでは、このたび2階に美しいサロン風のウィンドウ・コナーを設けました。部屋全体は赤と黒のムードでシックな感じ。ゆつくりとお買物を愉しんでいただけます。元プラの際、ぜひお立ち寄りください。

★ 早馴れ昨の生田神社西又平ではこのたび店内を新装いたしました。今までのしつくりと落ち着いた雰囲気はそのままだが一層明るくなつたような感じ。美しい店内で新鮮な材料に胸をふるい、お客様の味覚を満足させようと店主は大いにはりきっております。

★ 国際会館一階の御本真珠店はこのたび店内を改装し、オリビックで来日的外人客を迎えようと、大いにはりきっております。落ち着いた清潔な感じのお店です。